

才能の競演 愛媛の算額 ～愛媛の数学力と和算のおもしろさを探る～



来場者
1460人

開催期間：平成24年10月17日（水）～11月4日（日）

主催：愛媛大学教育学部 愛媛和算研究会 愛媛大学ミュージアム

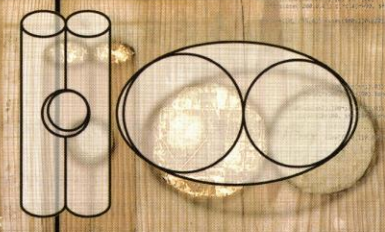
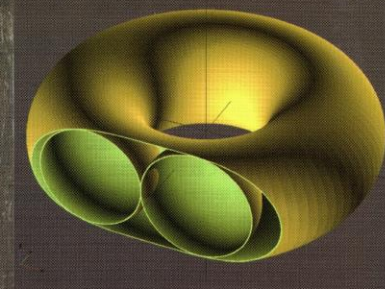
後援：愛媛県教育委員会 松山市教育委員会 愛媛県教育研究協議会算数・数学委員会
愛媛県高等学校教育研究会数学部会

才能の競演 愛媛の算額

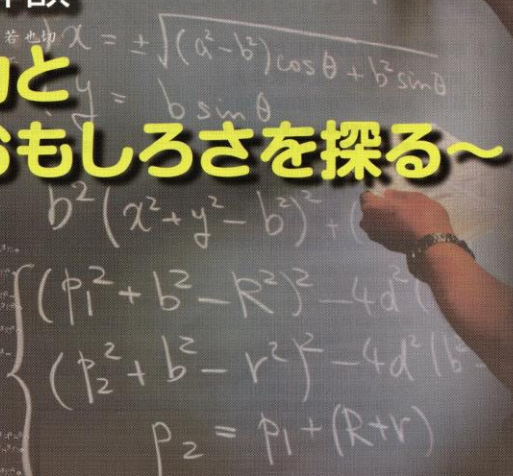
～愛媛の数学力と和算のおもしろさを探る～

会期：平成24年10月17日(水)～11月4日(日)
 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
 会場：愛媛大学ミュージアム 企画展示室・多目的ルーム

主催：愛媛大学教育学部、愛媛和算研究会、愛媛大学ミュージアム
 後援：愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、松山市文化協会、
 愛媛県教育研究協議会算数・数学委員会、愛媛県高等学校教育研究会数学会



和算の歴史や算額の問題に関する日本語の文章が縦書きで並んでいる。



才能の競演 愛媛の算額 ～愛媛の数学力と和算のおもしろさを探る～

会期：平成24年10月17日(水)～11月4日(日)

江戸時代に、日本で独自に発達した数学を「和算」といいます。愛媛には、和算を学んだ人々が「自分の学力の向上」や「一門の繁栄を祈願」して数学の問題を絵馬にして神社仏閣に奉納した「算額」が多く残っています。

これまで数十年にわたり、愛媛県内の算額等の歴史及び数学的内容について調査研究活動を続けてきました。中でも、伊佐爾波神社(松山市)に幕末から明治にかけて奉納された算額には、難解な問題が数多く含まれ、その当時の愛媛の文化レベルの高さを窺い知ることができます。今回、これまでの研究活動で得られた成果をもとに、当時の人々の和算に対する情熱やさらに高みを目指す真摯な気持ちを多くの方々に知っていただきたく、展示会を開催します。この展示会が、中学生・高校生・大学生等の若い人たちの、算額を文化財として理解する好機となることを願っています。

※表裏のイメージ図は、伊佐爾波神社の吉田茂兵衛の算額を使用しております。

〈展示内容〉会場：愛媛大学ミュージアム 企画展示室・多目的ルーム

〈企画展示室：第1展示〉 算額から愛媛和算家の数学力を探る ①愛媛の和算のあゆみ ②愛媛の算額全34面を語る	〈多目的ルーム：第2展示〉 和算のおもしろさを知る ①算木を使った計算体験 ②和算パズル体験 ③和算問題に挑戦しよう ④復元算額と中学生による算額展示
--	---

〈講演会〉全会場：愛大ミュージアム1F(アクティブラーニングスペース)

- 1 学術講演会 (10月18日(木) 14:00～15:30)**
 演題 「愛媛和算家の数学力」
 講師 愛媛大学教育学部教授 平田浩一
 愛媛大学教育学部と愛媛和算研究会とでこれまで数十年にわたり調査を続けてきた、愛媛県内の算額について、特に幕末から明治にかけて伊佐爾波神社に奉納された算額について、その数学的な内容についての研究成果を、具体的に算額問題を個々に解説しながら、分かりやすく紹介いたします。
- 2 講演会 (10月21日(日) 13:30～15:30)**
 - 演題 「ようこそ和算の世界へ」
 講師 愛媛和算研究会副会長 谷本賢治
 江戸時代に、日本で独自に発達した数学(「和算」)の愛好者は数学の問題を絵馬にした「算額」を神社仏閣に奉納しました。6世紀に百済から伝わった中国の数学書「九章算術」は和算に大きな影響を与えたとされています。和算の成立・発展を「和算の歩み」として分かりやすくお話しします。伊佐爾波神社には全国で一番多くの算額が残り「算額の宝庫」といわれています。代表的な大西佐兵衛、山崎喜右衛門、吉田茂兵衛の算額について、彼らの人物像と問題を紹介します。算額の様々な特徴を理解することによって、算額が地方の生活や文化に残した足跡を知ってほしいと思います。
 - 演題 「和算とパズル」
 講師 愛媛大学教育学部教授 平田浩一
 江戸時代の数学書のベストセラー「塵劫記」(吉田光由 1627年)は、ソロバンの使いから日常生活に必要な計算、さらには測量等の技術的計算を紹介している入門書ですが、その一方で、ねずみ算、碁子立て、百五減算、目付字などの娯楽的なテーマの問題も多く取りあげられています。塵劫記は楽しみながら日常生活の中の数学を学ぶ大衆的な数学書でした。その後「和蘭智恵丸」(磯中仙 1727年)や「聴者御留雙紙」(中根彦彦 1743年)が出版され、和算は江戸時代の庶民の娯楽として広まっています。講演では、その当時の数学パズルを楽しむとともに、その数学的背景についても探求してみましょ。

INFORMATION & ACCESS

- 入館料：無料
- 開館時間：午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
- 休館：火曜日/年末年始(12月28日～1月4日)/大学入試センター試験日 並びに前期日程試験日及び後期日程試験日/メンテナンス休館(2月1日～15日) /臨時休館

■伊予県道内電車をご利用の場合：環状線(赤十字病院)下車、北へ徒歩約5分
 ■伊予バスをご利用の場合：東高橋(愛媛大学前)下車

公共交通機関を利用してご来館ください。なお、土曜・日曜及び祭日(いずれも休館日を除く)は、キャンパス内の駐車場をご利用することができます。

問合せ：
 愛媛大学ミュージアム
 愛媛県松山市文京町3 愛媛大学城北キャンパス
 TEL 089-927-8293
<http://www.museum.ehime-u.ac.jp/>

ランダムには、ミュージアムカフェのほか、レストランや学生食堂(平日のみ)などの休館を除くことができます。

第一展示

算額から愛媛和算家の数学力を探る

和算を学んだ人々が、「自分の学力の向上」や「一門の繁栄を祈願」して数学の問題を「算額」という絵馬にして奉納しました。人々が多く集まる神社仏閣への奉納は、和算家にとっては自分の学力の発表の場になり、一般の人々にとっては格好の学習の場でした。

愛媛県内にはそのような算額が34面残されています。本展ではそれらすべてを実物大の写真パネルで展示しています。

特に、中央に展示している18面の算額は、伊佐爾波神社に江戸時代後期から幕末にかけて奉納された算額です。多数の和算書が出版され、和算のレベルが最高潮に向かおうとしている時期にあたります。当時奉納された算額には難問が多く、これまで一部の問題しか数学的な研究がなされていませんでした。

このたび、これら算額の問題をコンピュータの力も駆使し現代的に解いてみることで、その数学的内容を明らかにすることができました。展示資料を通して、当時の愛媛の和算家の数学力を探っていただきたいと思います。





第二展示

和算のおもしろさを知る

和算が普及する原点ともいえる、江戸時代の数学書のベストセラー「塵劫記」(吉田光由・1627年)は、ソロバンの使い方から日常生活に必要な計算、さらには測量等の技術的計算を総合している入門書ですが、その一方で、ぬずみ算、親子立て、百五減算、目付字などの娯楽的なテーマの問題も多く取りあげています。

塵劫記に刺激され、娯楽的なテーマを数多く取りあげた数学書もその後出版され、和算は、楽しみながら学ぶ日常生活の中の数学として、庶民の間に広まってゆきます。

この展示室では、楽しみながら学ぶ和算を体験するコーナー「基本を使った計算体験」、「和算パズル体験」、「和算問題に挑戦しよう」を設けました。中学生・高校生が授業の中で収めた学習成果も展示しています。しばしの間、江戸時代にタイムスリップして、和算を楽しんでみてください。



